

2021年5月14日

各位

会社名 株式会社ガーラ
代表者名 代表取締役グループ CEO 菊川 暁
(コード：4777、JASDAQ)
問合せ先 取締役 CFO 岡本 到
(TEL. 03-6822-6669)

2021年3月期連結業績と前期実績との差異及び個別業績と前期実績との差異並びに連結決算における営業外収益（助成金収入、為替差益）、特別損失（減損損失、本社移転損失）の発生に関するお知らせ

当社は、2021年3月期（2020年4月1日から2021年3月31日）連結業績と前期実績との差異及び個別業績と前期実績との差異並びに連結決算における営業外収益（助成金収入、為替差益）、特別損失（減損損失、本社移転損失）の発生に関して、下記のとおりお知らせいたします。

なお、当社は2021年3月期の業績予想は公表しておりません。

記

1. 2021年3月期連結業績と前期実績との差異

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前期実績（A） 2020年3月期	412	△273	△287	△432	△25.14
当期実績（B） 2021年3月期	985	26	93	△131	△6.98
増減額（B－A）	572	299	381	301	－
増減率（％）	138.8%	－	－	－	－

2. 2021年3月期個別業績と前期実績との差異

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前期実績（A） 2020年3月期	45	△213	△239	△482	△28.03
当期実績（B） 2021年3月期	55	△210	△169	△184	△9.80
増減額（B－A）	10	2	69	297	－
増減率（％）	22.2%	－	－	－	－

3. 差異が生じた理由

(1) 連結業績

2021年3月期の連結業績は、連結売上高985百万円（前期比138.8%増）となり、大幅な増収となりました。これは、主にオンラインゲーム事業及びスマートフォンアプリ事業の売上高が前期と比較して増加したことによります。

営業利益及び経常利益につきましては、売上高増加に伴う売上総利益の増加があった他、販売費及び一般管理費が前期と比較してマーケティング活動費用が減少したものの、ソフトウェア償却費及び開発人員の件費が増加したことから増加となり、また、営業外収益として、主に暗号資産売却益46百万円、為替差益14百万円、助成金収入3百万円を計上したことを理由として前期実績と比較して差異が生じました。

親会社に帰属する当期純利益につきましては、投資有価証券売却益4百万円、新株予約権戻入益9百万円を特別利益として計上した一方で、減損損失228百万円、本社移転損失3百万円を特別損失に計上したことを理由として前期実績と比較して差異が生じました。

これらの結果、営業利益26百万円（前期は営業損失273百万円）、経常利益93百万円（前期は経常損失287百万円）、親会社株主に帰属する当期純損失131百万円（前期は親会社株主に帰属する当期純損失432百万円）となりました。

(2) 個別業績

2021年3月期の個別業績は、売上高55百万円（前期比22.2%増）となり、増収となりました。これは、主にクラウド関連事業の売上高が前期と比較して増加したことによります。

また、営業利益及び経常利益につきましては、株式報酬費用の減少があったものの、連結子会社(株)ガーラジャパンに対する貸倒引当金繰入額の計上等に伴う販売費及び一般管理費の増加、また、営業外収益として、主に為替差益14百万円、貸倒引当金戻入額22百万円を計上したことを理由として前期実績と比較して差異が生じました。

当期純利益につきましては、投資有価証券売却益4百万円、新株予約権戻入益9百万円を特別利益として計上した一方で、主に関係会社事業損失引当金繰入24百万円、本社移転損失3百万円を特別損失に計上したことを理由として前期実績と比較して差異が生じました。

なお、上記のうち、貸倒引当金繰入額、貸倒引当金戻入額、関係会社事業損失引当金繰入額は、連結財務諸表上では全額消去されるため、連結業績への影響はありません。

これらの結果、営業損失210百万円（前期は営業損失213百万円）、経常損失169百万円（前期は経常損失239百万円）、当期純損失184百万円（前期は当期純損失482百万円）となりました。

4. 営業外収益（助成金収入、為替差益）、特別損失（減損損失、本社移転損失）の発生について

(1) 営業外収益（助成金収入、為替差益）

当連結累計期間において、新型コロナウイルス感染症に係る雇用調整助成金及び事業継続緊急対策（テレワーク）助成金として助成金収入3百万円、昨今の為替相場の変動により為替差益14百万円を営業外収益に計上しております。

(2) 特別損失（減損損失、本社移転損失）

当連結累計期間において、将来収益を保守的に見直した結果、収益性が見込めないソフトウェアについての減損損失228百万円、差入保証金の回収不能見込額として本社移転損失3百万円を特別損失に計上いたしました。

5. 2022年3月期の業績見込みについて

当社グループは、スマートフォンアプリ事業における、アプリの開発やダウンロード配信が予定どおりに進まない可能性や、ダウンロード配信開始後のアプリによる課金収入の予測が極めて困難であり、また、オンラインゲーム事業における、既存タイトルのバージョンアップによる業績予測が極めて困難であります。さらに、新規事業であるクラウド関連事業及びVR事業については、当該事業を取り巻く環境の変化等により

損益が大きく変動する可能性が高く、適正な業績予想が極めて困難であることから、業績予測の公表を差し控えさせていただきます。

以 上